資料４

第四期学校教育計画の「基本理念」と「方向性」の案について

１　基本理念の変遷

●第１期（平成 22～26 年度）
「知性・感性を磨き　未来を切り拓く　武蔵野の教育」
●第２期（平成 27～31 年度）
「知性・感性を磨き　自ら未来を切り拓く　武蔵野の教育」
●第３期（令和２～6 年度）
「自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい未来の創り手となる力を育む」

２　第４期（令和７～11 年度）基本理念の案

～教育理念「自他ともに幸福な社会を実現する 未来の創り手を育む」～

＜提案①＞

●基本理念→教育理念

①辞書を紐解くと、「理念」には次のような意味がある。
（大辞泉）【理念】＝ １　ある物事についての、こうあるべきだという根本の考え
２　哲学で、純粋に理性によって立てられる長経験的な最高の理想的概念。

１・２いずれの意味を取ったとしても、理念という言葉自体に「根本」や「理想」といった意味がある。「基本」についても確認すると、
（大辞泉）【基本】＝判断・行動・方法などのよりどころとなる大もと。基礎
といった意味があり、理念と似ている意味合いの部分がある。

②審議会では「理念とはスローガンではなく、構造化された知識的な概念だと思う」といった意見もあった。

③以上のことから、武蔵野市の学校教育の目指すべき理想の姿や、学校教育として何をしていくのかといった構造を明確にするという意義を込め、「基本理念」ではなく、「教育理念」という言葉に変更してはどうか。

④なお、近隣自治体では、狛江市が「教育理念」という言葉を使用している。

【参考（関連する審議会の意見等）】
●理念的なというのはスローガンじゃなくて、私は、かなり構造化された知識的な概念だと思う【第３回】
●武蔵野市の教育はいい状況にある。どの面においても、とても先生方も頑張っているし、地域もいいし、子どももいい（略）そこまで逆に基盤があるんだから、（略）次の望みを子どもから出して、それに対して学校が何をしていくかということが多分大事なんです。【第３回】

＜提案②＞

●未来の創り手となる力を育む→未来の創り手を育む

●方向性Ⅰ＝子どもの育ちや学びを支える基盤をつくる

①「力を育む」は資質・能力の育成という視点が強く出るが、学校教育計画は資質・能力の育成だけでなく、心理的安全性の確保の視点からの子どもの居場所づくりや、教育活動を充実させるための環境づくりに関する施策などもある。

②また、国の第四期教育振興計画のコンセプトは「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の『創り手の育成』」となっており、創り手となる力（資質・能力）を育むことに留まらず、その力を発揮して社会を形成していく人材が求められていることが読み取れる。

③以上のことから、「創り手となる力を育む」ではなく、「創り手を育む」に変更してはどうか。

④加えて、未来の創り手である子どもたちの学びを充実させるための基盤として、学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントや社会に開かれた教育課程といったことが示されている。

⑤審議会では、学校の教育目標の実現のために、PDCA サイクルの推進や、学校の目指す方向を家庭や地域と共有し、協力を得ていく社会に開かれた教育課程の重要性が確認された。

⑥第三期学校教育計画でも基本的な考え方に「学校・家庭・地域が相互に連携、協働した教育」を掲げている。

⑦このことから、組織的な学校運営や家庭・地域の連携などの着実な推進が重要であることを明らかにするために、本計画の方向性Ⅰに「子どもの育ちや学びを支える基盤をつくる」を設定してはどうか。

【参考（関連する審議会の意見等)】

●第四期教育振興計画コンセプト「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」

●社会に開かれた教育課程といっても（略）大事なのは、「社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」というところ。【第１回】

●資質・能力の実現に向けて学校と社会、もしくは地域社会と連携しながら、協働しながら子どもを育てていってほしい【第２回】

●こんなに深く考えてカリキュラムを組んでくださっているということが、(略) 保護者に伝えていただくというチャンスがあると、「じゃ、こうやって協力しよう」とか、ＰＴＡでこういうことをやるから、これに参加してみようかとか、地域のこういう会に参加してみようか、子どもにも参加することによってプラスがあるよという相互関係が生まれてくるのかな【第２回】

●学校で子どもを育てることによって、(略) 10 年後、20 年後、30 年後の社会をつくる【第１回】

＜提案③＞

●自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい（未来）

→自他ともに幸福な社会を実現する

●方向性Ⅱ＝自らの人生を切り拓き、自信と意欲を育む

●方向性Ⅲ＝多様性を生かし、社会を形成する人材を培う

①個人の幸福を実現していくには、第三期の基本理念にあるような「自ら人生を切り拓く」ことは大切である。

②一方で、第２回審議会の資料に示したが、日本発のウェルビーイングの要素には人とのつながり、協働性、利他性、社会貢献意識といった協調的要素もある。

③ウェルビーイングの観点に立つと、個人の幸せや生きがいと地域・社会の幸せや豊かさの両面の実現が欠かせない。このことは第１回の審議会の意見にもあった。

④以上から、本市の学校教育が目指す理想の姿を「自他ともに幸福な社会の実現」という形で表してはどうか。

⑤そのうえで、個人の幸せや生きがいの実現には、先に述べた「自ら人生を切り拓く」ことや、第三期学校教育計画の基本的な考え方にある「自信を高め、意欲を育む」ことが重要となる。そこで、本計画の方向性Ⅱとして「自らの人生を切り拓き、自信と意欲を育む」と設定してはどうか。

⑥また、幸福の捉え方は多様であり、それゆえに相違点、共通点などを明らかにしていく対話や合意形成が重要となる。審議会でも多様な他者との協働やコミュニケーションが重要と多くの意見があった。

⑦第三期学校教育計画でも、基本的な考え方に「多様性を生かした教育」がある。

⑧このことから、地域や社会の幸せや豊かさを実現するために、多様な他者との協働を推進するべく、本計画の方向性Ⅲとして、「多様性を生かし、社会を形成する人材を培う」と設定してはどうか。

【参考（関連する審議会の意見等）】

●私だけが幸せになればいいんじゃなくて、私が参画して社会全体が幸せになるというような価値を学校は教えるべき【第１回】

●家庭という社会、学校という社会、地域という社会、市という社会、もっと国や世界という、その社会を形成していく力をどう子どもたちに持たせていくか【第３回】

●どういう子どもに育ってほしいかと言ったときに、僕はコミュニケーション力とホスピタリティー力とマネジメント力を持った子ども。その根底に（略）自己肯定感をもって自分の興味につき進めるとか、自分の興味が気づけてそれに対して真正面に取り組めるですとか、何かそういったところがあるといいのかなと思った。【第３回】

●多様な子がいる中で、それぞれがコミュニケーションを取る姿を見ていると、本当にそれはとても根幹で大切な部分であるなと、そこが多分スタートラインになるのかなと思う【第３回】

●いろんな価値観の中で合意形成しながら、よりよい自分をつくっていく子どもたちを育てていくためには、(略) 子どもたちが自分たちで考えて、そして行動して決定していく【第３回】